

宮城県林業普及活動情報

2022. 3月号 No. 166

もくじ

各地の林業普及活動情報

P 2 ~ 9

- 七ヶ宿町森林組合地区説明会での情報提供 (大河原地方振興事務所)
- 原木しいたけ出荷制限解除済み生産者への販売促進指導 (3回) (大河原地方振興事務所)
- 木質バイオマス発電所先進地への視察 (仙台地方振興事務所)
- 大衡村立大衡小学校にて植菌体験会を開催しました! (仙台地方振興事務所)
- 加美町広葉樹報告会・検討会 (北部地方振興事務所)
- 大崎東部地区の森林経営計画作成支援 (北部地方振興事務所)
- 第38回一迫林間学校の第二講「馬搬実演」への支援 (北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
- こもれびの森・森林科学館における令和4年度「自然体験講座」への提案 (北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
- 「ねじりほんによ」関連グッズの作製提案 (北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
- 「石巻圏域森林経営管理制度推進会議」を開催 (東部地方振興事務所)
- 米山中学校キャリアセミナー (東部地方振興事務所 登米地域事務所)
- 出荷制限指示及び解除に係る説明会 (東部地方振興事務所 登米地域事務所)
- 地域の環境保全, 資源利用に向けた取組 (気仙沼地方振興事務所)
- みやぎ森林・林業未来創造カレッジ研修森林ビジネスコース育林ビジネス講座の開催 (林業技術総合センター)
- 労働安全衛生規則第36条8号修了者を対象とした補講 (林業技術総合センター)
- 特用林産関係取組状況報告会の開催 (林業技術総合センター)

七ヶ宿町森林組合地区説明会での情報提供

大河原地方振興事務所

【22日(火)】

七ヶ宿町森林組合が開催している地区説明会に講師として出席し、森林経営計画制度の概要等について説明を行いました。

補助金を活用しながら森林整備を進めるには、森林経営計画の策定が重要であり、これにより所有者の所得向上に繋がることについて、町や森林組合と連携して周知を図ったことで、理解を深めてもらうことができました。

また、伐採したいが造林経費が負担になっているという意見があり、今後は、補助金を活用した造林等の推進についても、森林組合等関係機関と連携しながら、森林所有者の支援を行っていきます。



【説明会の様子】

原木しいたけ出荷制限解除済み生産者への販売促進指導（3回）

大河原地方振興事務所

【24日(木)】

既に出荷制限解除し生産を再開した原木しいたけ生産者に対し、地域交流プランナーと連携し、販路拡大に向けた指導・助言を行いました。

2回目の指導内容の振り返りを行いながら、現在の販売単価やコスト管理状況について把握することができました。

また、今後は、原油高騰による材料費の値上げなども考えられることから、パッケージだけでなく、経営規模の見直し等、今後も原木しいたけ生産を継続していくための課題の支援を行っていきます。



【指導の様子】

木質バイオマス発電所先進地への視察

仙台地方振興事務所

【23日(水)】

木材チップやペレット等を燃料とした「木質バイオマスエネルギー」による発電施設の設置が管内で2箇所計画されており、この発電施設に県産の木質燃料を供給するための仕組みづくりを目指して素材生産業者・木質燃料加工業者と発電事業者による協議会が結成され、木質チップのテスト出荷等の活動を行っています。

令和3年度最後の活動として、県外で稼働中の木質バイオマス発電所の視察を行い



【運送される木質チップ】

※写真はテスト出荷（令和4年2月）時のもの

ました。木質チップを積んだトラックがダンパーで持ち上げられ、コンテナから一気にチップが放出される様子などを見学し、今後の供給体制整備に向けて必要な点を確認しました。

当事務所では、今後も県産木質燃料の安定供給の体制整備に向け、協議会の活動を支援していきます。

大衡村立大衡小学校にて植菌体験会を開催しました！

仙台地方振興事務所

【22日(火)】

大衡村で約45年にわたり、原木しいたけを栽培しているベテラン生産者が講師となり、大衡村立大衡小学校の3年生の児童を対象に植菌体験会を開催しました。

元気いっぱい子ども達は、小さな種駒を打ち込んでから約2年の長い時間をかけてしいたけが収穫できるようになると知り、驚きつつも、初めて体験する駒打ちに楽しく取り組んでいました。

収穫できるようになるのは6年生の春です。今後もホダ木の管理等しいたけ栽培の一連の流れを引き続き児童に体験してもらい、原木しいたけの理解を深めてもらう予定です。



【原木に種駒を打ち込む児童と生産者】

加美町広葉樹報告会・検討会

北部地方振興事務所

【23日(水)】

広葉樹林の持続的な材利用を推進するため、加美町有林で令和2年度から2年間継続して実施した、森林育成事業（更新伐）の取り組み内容について関係者が集まり報告会を行いました。報告会では、材の利用率や樹種別割合のほか事業収支の報告がされ、森林育成事業（更新伐）を活用することで収益を確保できた内容が報告されました。また、関係者が各々取組んだ内容や課題について情報提供があり意見交換を行いました。

令和4年度はチップ材の有利販売による収益向上について検討するほか、町有林の立木売払いや広葉樹材の流通体制等を検討し、サプライチェーンの構築と地域における広葉樹材の利活用推進について引き続き支援していきます。



【加美町広葉樹活用の報告会・検討会の様子】

大崎東部地区の森林経営計画作成支援

北部地方振興事務所

【15日(火)】

大崎東部地区は、小規模・零細な森林所有者が多く、集約化による森林整備が遅れている地域であることから、効率的な森林整備を進めるため、森林施業プランナーのいる地元林業事業体に対し森林経営計画作成支援を行いました。また、当日は森林経営計画制度を勉強するため、森林施業プランナーの他、林業事業体に所属する2名の若手職員も同席し、林業普及指導員が森林経営計画の基礎知識やExcelによる計画作成演習について指導を行いました。今後は、森林所有者との打合せを行い、間伐等の森林整備事業を令和5年度から実施できるよう、令和4年中に経営計画の認定を目指し引き続き支援に取り組みます。



【森林経営計画作成指導の様子】

第38回一迫林間学校の第二講「馬搬実演」への支援

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【5日(土)】

一迫林業研究会は、林業の普及PRを目的として長年実施している「一迫林間学校」の今回の活動テーマを「力」と掲げましたが、2月26日開催の第一講「スギ立木伐採実演・チェーンソー安全講習」に続き、第二講「馬搬実演と馬との触れ合い体験」が栗原市栗駒地区で行われました。

前週に開催された第一講で伐採された丸太3本を「(一社)美馬森Japan」のブルトン系せん馬「ショウちゃん」の地曳きとテラー曳きにより、ログハウス建設予定地までの約500mを搬送し、その様子を参加者が見守りました。

近年はフォワーダ等の高度な機械化が進み、「馬搬」はほとんど見られなくなりましたが、搬出路開設が不要で林地に与えるダメージが少ないことから、奥地の小規模な伐採現場などの場合は、今でも十分な採算が確保される搬出方法であると考えられます。

しかも化石燃料を用いず音の静かな「馬搬」には、馬の魅力・力強さと、環境配慮への有効性をも感じ取ることができることから、この伝統的搬出方法の技術承継を支援していきたいと考えます。



【「力」を活動テーマとした一迫林間学校の「馬搬実演」】

こもれびの森・森林科学館における令和4年度「自然体験講座」への提案

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【23日(水)】

こもれびの森・森林科学館の運営は、令和3年度に森林インストラクター協会から「(株)ゆめぐり」に指定管理者が移管されましたが、移管2年目にあたる令和4年度 of 自然体験講座の各種イベント等に対して新たな企画等の提案・アドバイスをを行いました。

具体的には、栗原地域の人材を活用することに主眼を置きながら、管内で取組が進む苔について、クラフトワークメニューへの苔玉・テラリウム講習会や出前講座を追加するとともに、栗原管内の小学校12校への環境学習講座の開催等を提案しました。

また、地域の人材を活用したイベントとして、藍染や一閑張りという伝統技術を盛り込んだクラフトメニューも追加されるなど、多くの来場者に対して新たな発見や体験を提供する場が加わることになりました。



【苔玉・テラリウム講習会等の追加と出前講座としての開催を了承いただきました】

「ねじりほんによ」関連グッズの作製提案

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【23日(水)】

様々な市販グッズが揃う栗原市のマスコットキャラクター「ねじりほんによ」について、木製のピンバッチを作れないか、管内の製造元(株)くりこまくんえんに提案を行っていたところ、試作品完成の連絡を受けたため、商品検討を行いました。

試作品は、掲示用マグネット兼用の「ねじりほんによ」7タイプ、「むすび丸」1タイプで、随所に木工品としての工夫が施され、いずれも完成品に近く、どのタイプを商品化するかが焦点となりました。検討の末、多彩な用途を想定して、全てを商品化することとなりました。

また、同じく、「ねじりほんによ」のぬいぐるみは、お尻付近に稲杭が貫通し、自立の姿勢がとれないため、「専用木製椅子」の



【掲示用マグネットにもピンバッチにも使える「ねじりほんによ」関連グッズ】

作製を提案しました。ぬいぐるみは大・小2タイプあり、それぞれの体型に応じた稲杭の納めかたや、椅子のデザイン、背もたれの角度等、市販に向けたアイデアを集積し、1ヶ月後の販売を目標にすることになりました。

商品開発を担う同社は、栗駒山麓のスギ材を使ったペン立てやコースター等の木製商品の開発販売をとおして森林・林業をPRしており、今後は販売拠点の拡充や商品ラインナップの充実に向けた協力を予定しています。



【「ねじりほんによ」の体型に合わせた木製椅子の作製打合せ】

「石巻圏域森林経営管理制度推進会議」を開催

東部地方振興事務所

【9日(水)】

管内市町、森林組合、サポートセンター等の関係者を一堂に参集し、森林経営管理制度圏域会議を実施しました。

会議では管内市町から令和3年度実績及び令和4年度計画内容についての報告、森林経営管理サポートセンターから、市町村支援の実績と研修計画等の説明が行われました。

当事務所からは、県内市町における取組状況について情報提供したほか、管内市町が集積計画策定を進めていることから、記載内容に関する留意点などを重点的に説明を行いました。その後に行われた意見交換では取組みを進めていく上での課題等を聞き取り、情報の共有を図りました。

今後も集積計画の作成、森林整備等の円滑な推進に向けた支援を継続していきます。



【圏域推進会議の開催状況】

米山中学校キャリアセミナー

東部地方振興事務所 登米地域事務所

【10日(木)】

多くの職種の方々との出会いや話し合いを通じて生徒一人一人に自らの生き方を考えさせ、将来に対する目的意識を持って主体的に自己の進路を選択決定する意欲や態度を育成することを目的に開催されたキャリアセミナーに講師として参加し、森林や林業に関わる仕事の内容について紹介しました。

同じ林業でも、林業事業体のように実際に現場で木を伐採する仕事のほかに、県や市町村の職員として、森林計画や森林整備、森林



【真剣に説明を聴く中学生】

保護といった分野で、方針を決めたり事業を発注したりする仕事があることを紹介し理解を得ました。また、森林の保全・整備といった日常の仕事が、地球温暖化防止のための吸収源対策の推進に繋がることを説明し、仕事としての重要性について理解を得ました。

出荷制限指示及び解除に係る説明会

東部地方振興事務所 登米地域事務所

【18日(金)】

令和4年2月に国から登米市産野生きのこの出荷制限が指示されたため、山菜やきのこの取扱いに係る注意事項や出荷制限解除に向けた取組、損害賠償請求の内容等について周知することを目的として、市内の産直施設を対象に説明会を開催しました。

その結果、出荷制限指示の対象品目について周知が図られるとともに、採取場所により放射能濃度にバラつきが出る山菜等については、生産者が出荷前の放射能濃度測定を徹底する必要があることについて理解を得ました。また、道の駅津山に設置された非破壊型検査装置による出荷制限解除に向けた検査の実施や、検査サンプルの収集協力について同意を得ました。



【産直施設代表者を対象とした説明会】

地域の環境保全、資源利用に向けた取組

気仙沼地方振興事務所

【23日(水)】

管内で侵入竹の伐採・除去や荒廃竹林の整備活動の実施を検討する地域団体（竹輪会）から活動の実現に向けた支援・指導の要請が寄せられたため、打合せを行いました。

同団体では、将来的にも地域と一体となって継続的に活動していく考えを持っており、みんなの森林づくりプロジェクト推進事業の対象となり得ることから事業概要の説明を行ったところ、理解が得られ、実施に向け取り組むことになりました。



【活動実現への熱意が伝わる打合せ】

みやぎ森林・林業未来創造カレッジ研修森林 ビジネスコース育林ビジネス講座の開催

林業技術総合センター

【1日(火),2日(水)】

林業技術総合センター(大衡村)にて、みやぎ森林・林業未来創造カレッジ研修森林ビジネスコース育林ビジネス講座第9～10回を実施しました。第9回は、株式会社ジツタ、北部地方振興事務所林業振興部の協力を得て、GNSS測量機器及びレーザー距離計等による測量実習を実施しました。また、株式会社日本政策金融公庫、林業振興課みやぎ材流通推進班の協力の下、林業融資制度に関する講義を実施しました。第10回は、研修生自らが検討したビジネスプランを発表し、意見交換を実施しました。ビジネスプランの検討・発表では、研修生同士、事務局と研修生による全方向型のコミュニケーションがなされ、有意義な意見交換ができました。研修修了後も、修了生に対して継続的に支援します。



【レーザー距離計による測量】



【ビジネスモデルの発表】

労働安全衛生規則第36条8号修了者 を対象とした補講

林業技術総合センター

【8日(火)】

県職員が現場においてチェーンソー作業を実施する際に、労働基準法で定める事業者の義務と同等の責務を確保するため、2名の受講者に対し「労働安全衛生規則の一部を改正する政令の施行について」(労働基準局長通知)に規定する下記の教育をフォレスターが実施し、教育修了者に受講証明書を交付しました。

《学科》「伐木の方法に関する知識のうち造材の方法、下肢の切創防止用保護衣の着用」(1時間)、「関係法令のうち法、令及び新安全衛生規則中の関係条項」(1時間)

《実技》「伐木等の方法のうち 下肢の切創防止用保護衣の着用」(30分)、



【保護衣等を着用した模擬伐倒体験】

特用林産関係取組状況報告会の開催

林業技術総合センター

【18日(金)】

当センターにおける特用林産関係の取組内容について、生産者への情報提供を行うとともに、関係機関との情報共有を図るため、Web方式による報告会を開催しました。

報告会では、農業施設や農業資材を活用したハタケシメジの「簡易施設栽培法」の実証試験の成果や、より簡易施設栽培や野外栽培に適した低コスト栽培を目指し、開発を進めている「みやぎLD3号(仮)」の開発状況を報告しました。また、県内産しいたけ原木を使用した試験栽培の放射性物質検査結果の途中経過を報告しました。

報告後には、参加者からハタケシメジの県外生産者が増加した理由や、原木しいたけに使用した種菌別の収量などについての質問があり、関心の高さが見られました。



【Web報告会の状況(センター)】